

双葉町の復興まちづくりの目標・基本方針(案)

主な委員会意見
<p>【町外における生活再建】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仮設住宅の老朽化への早期対応が必要 ・町民のストレスケアや自立していくための支援が必要 ・復興公営住宅の早期整備を ・今すぐ避難先ごとに集まれる場所・交通手段が必要 ・復興公営住宅を中心として商業施設、老人が相互に助け合える共同生活の場、病院等をつくるべき
<p>【きずな・コミュニティ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町の風景を残したり、町のシンボルを作ってきずなを強める ・きずなは双葉町の内でも外でも感じられるようにすべき ・近隣自治体とのきずなを強める(連携する) ・町に戻る人、町に戻らない人、お互いの考えを尊重する ・コミュニティの場づくりをする <p>【シンボル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと感じられるものがシンボル ・町の風景・自然の復活が必要 ・シンボルとなるモニュメント・施設の設置
<p>【歴史・伝統・文化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちに歴史・文化を継承する ・双葉町の記録を残す ・「双葉町」の名前を地図に残したい ・震災を忘れないように記念日や資料館をつくる
<p>【町の核】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復興のシンボルとして町内復興拠点が必要 ・新しい双葉町をつくる ・商業施設、病院、金融機関などが一箇所にあり、近くに公園や憩いの場があるまちをつくる ・生活インフラの確保 ・全国から双葉町民が集まれる拠点が必要 <p>【新たな産業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・双葉町に戻るには新たな産業が必要 ・除染・廃炉関係の産業は双葉町を中心に立地を ・イノベーションコースト構想を中心に企業などの誘致を ・他にはない新たな技術を使った産業 <p>【産学連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学・研究施設の誘致、国際産学連携拠点の整備 ・双葉町でしかできない研究を(世界で一つの研究機関をつくる) <p>【雇用の場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い人が戻れる、双葉の子どもたちが働きにくるまちづくり <p>【農業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業の再生として、新しい農業を <p>【観光・交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流人口を増やすためのモノ(施設)を作る ・世界から視察・研究に来る仕組みを <p>【福祉】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療・介護施設を充実させる、日本一の雇用条件で
<p>【教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・双葉町を支える人材の育成(日本一、世界一の双葉の教育) ・人を支える教育、町の人が町を支えるための教育施設 例え ば、福祉人材の育成を ・多世代間交流 ・子どもの意見を取り入れる、若者が参画できる仕組みの創出
<p>【安全・安心】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期に除染を行ってほしい ・中間貯蔵施設問題は復興のネック ・廃炉の安全が復興の前提

復興まちづくりの目標(案)
<p>避難先における生活再建に向けて</p> <p>■町外における生活再建の実現</p> <p>双葉町への帰還・復興には長い時間がかからざるをえないことから、双葉町復興まちづくり計画(第一次)にあるとおり、町民のみなさんが、それぞれの希望する場所で住居を確保し、仕事や生きがいなどの生活の糧を見つけて日常の暮らしを取り戻せるようにします。</p>
<p>双葉町の復興に向けて</p> <p>■町民のきずなをつなげるまち</p> <p>長期に渡る避難生活や避難先の分散化により、町民同士の交流の機会が失われ、町民のきずなが薄れていくことが懸念されています。</p> <p>一方、双葉町の復興に向けた取組を進めていくためには、町民のふるさとへの思いをつなぎ、町民や双葉町に係る全ての人達の力を結集していく必要があります。</p> <p>このため、将来に渡り町民のきずなをつなげるまちを目指します。</p>
<p>■ふるさと双葉町の記憶を次世代に引き継ぐまち</p> <p>現在、双葉町民は長期にわたる避難生活を強いられており、ふるさとから離れて暮らしているため、これまで双葉町で培われてきた歴史・伝統・文化・風景などの町の記憶が失われてしまうことが懸念されます。</p> <p>しかし、歴史・伝統・文化・風景は双葉町そのものであり、双葉町民の心のふるさととして今後も引き継いでいくべき貴重な財産です。</p> <p>このため、それらのふるさと双葉町の記憶を次世代に引き継ぐまちを目指します。</p>
<p>■新たにみんなでつくりあげる魅力的なまち</p> <p>双葉町への帰還までには長い時間がかかると見込まれることから、町への帰還に当たっては、再び双葉町にて生活することに魅力を感じられるまちづくりが必要です。</p> <p>さらに、帰還する町民だけでなく、新たな住民を呼び込み、それらの人々が融合しながら、新たな街を築いていく必要があります。</p> <p>また、安心して帰還できる環境づくりとして、町外における生活拠点と双葉町との二地域居住などの考え方を導入することも必要です。</p> <p>このため、医療・福祉の充実をはじめとする生活関連サービスなどの利便性が高い快適な生活環境や魅力的な教育・余暇活動の場等を備えた、新たにみんなでつくりあげる魅力的なまちを目指します。</p>
<p>■新たな産業を創出し継続的な雇用を生み出すまち</p> <p>福島第一原子力発電所の事故により、町の産業、雇用の場が失われています。</p> <p>このような状況において活力ある町を取り戻すためには、既存の産業を再生するとともに、新たな産業を創出する必要があります。</p> <p>魅力ある継続的な雇用の場を確保することは、将来、若者が町に戻って生活できる前提です。</p> <p>このため、復興を牽引する新たな産業を創出し継続的な雇用を生み出すまちを目指します。</p>
<p>■次代の双葉町を担い世界に貢献する人材を育てるまち</p> <p>双葉町を復興・再興し、将来にわたって持続可能な町を実現するためには、次代の双葉町を担う人材の育成がかかせません。</p> <p>また、双葉町への帰還が実現した際には、高齢者等の様々な住民の生活を支える人材が必要になります。</p> <p>このため、次代の双葉町を担うとともに、双葉町民であることを誇りに思い世界に貢献する人材を育てるまちを目指します。</p>
<p>■災害を克服し安全・安心に暮らせるまち</p> <p>双葉町は、東日本大震災による巨大地震と大津波により甚大な被害が生じました。また、福島第一原子力発電所の事故により全町避難生活を余儀なくされ、町への帰還には、放射線量の減衰、除染や廃炉作業の進捗、中間貯蔵施設の動向等、様々な課題が残されています。</p> <p>このため、町への帰還を希望する町民等の安全を確保する様々な対策を講じながら、災害を克服し安全・安心に暮らせるまちを目指します。</p>

復興まちづくりの基本方針(案)
<p>○町民一人一人の生活再建の実現に向けた取組の推進</p> <p>復興まちづくり計画(第一次)に示した、原子力損害賠償、住居の確保、避難生活における健康被害の防止、事業所再開支援・雇用の確保、保健・医療・福祉体制の確保、教育環境の確保などの取組を事業計画(実施計画)に基づき着実に進めます。</p> <p>○双葉町外拠点(復興公営住宅)の整備</p> <p>双葉町民が集まって居住できる県営の復興公営住宅を、いわき市、郡山市、南相馬市、白河市に整備します。この復興公営住宅を「双葉町外拠点」として、町民のコミュニティの拠点としても機能できるようにします。特に、いわき市勿来酒井地区は、「双葉町外拠点」の中心として、復興公営住宅のみならず、診療所、高齢者福祉施設、店舗等、集会所等の交流施設等の併設を行うよう県等に要望しています。</p>
<p>○双葉町とのつながりの維持</p> <p>全国に避難する町民が町役場とのつながりが維持できるよう、情報端末(タブレット)の活用や町のホームページの高度情報化を図り、必要な情報の迅速な提供に努めます。</p> <p>町民の皆さんが、安全に安心して町内に立入り、墓参りが行える環境を引き続き整備します。</p> <p>○交流の促進</p> <p>町民が集まることのできる交流拠点の整備や町民が集う機会を創出します。</p> <p>また、近隣自治体との連携を深めるとともに、多様な人々が交流できる機会を創出します。</p> <p>○町の復興のシンボルづくり</p> <p>町民のきずなの維持・発展に向けた取組として、「復興ロゴマーク」の周知・活用を行うとともに、町民に愛着のあるモニュメントの設置などの町の復興のシンボルづくりを行います。</p> <p>○双葉町の記憶を伝える</p> <p>歴史・文化・昔話等をアルバム、ビデオ、本等で残すとともに、祭りの場や伝統芸能の練習・披露の場の確保や歴史・文化・震災の記録を伝える資料館の整備、復興祈念施設の誘致等に取り組みます。</p> <p>○ふるさとへの思いや良さを継承する</p> <p>町民の意見を踏まえて共同墓地を整備します。また、ふるさとの荒廃を防止し双葉町らしさのある特徴的な風景・街並み・自然を残すとともに、町に所在する文化財の保存・管理・記録を進めます。</p>
<p>○新たな生活の場の確保</p> <p>双葉町のこれまでの良さを継承しつつ、一定の地域に行政・医療・福祉・教育・文化・商業施設等や住宅地を集約させ、「新たな生活の場」を確保します。</p> <p>○既存中心市街地の再生</p> <p>歴史のある建造物の保存・再建、ふるさと双葉町の街並みを残しながら、既存中心市街地の再生を図り、ふるさとを感じる場や商店・住宅等を中心とした生活の場を確保します。</p> <p>○復興を牽引する新たな産業の創出</p> <p>新たな産業を創出し復興を牽引する「新たな産業の場」を整備し、廃炉・ロボット等の研究開発施設や産学連携施設、再生可能エネルギー産業等の集積を図ります。</p> <p>また、国内だけでなく、世界中から優秀な技術者、研究者を受け入れ、世界に誇れる最先端技術の集積地を形成します。</p> <p>○魅力的な雇用の場の確保</p> <p>新たな産業の創出と連携し、多様な業種の誘致を進め、継続的な雇用を生み出す魅力ある「新たな雇用の場」を確保します。</p> <p>○既存産業(農業・商工業)の再生</p> <p>新たな形態・しくみ等を取り入れながら農業を再生するとともに、町内の事業所の再開に向けた取組を進めます。</p> <p>○生活・産業を支えるインフラの整備</p> <p>町内の新たな産業や生活を支えるインフラの復旧・整備や公共交通の再開・確保を進めます。</p> <p>○人材育成・教育</p> <p>原子力災害からの復興を成し遂げる双葉町ならではの教育や最先端技術、地域の産業や福祉と連携した教育プログラムの開発・実施等を通じて、次世代を担う人材育成を行います。</p> <p>町の復興における若者参画のしくみづくりや多世代交流の場を創出します。</p> <p>○高度な教育環境整備</p> <p>廃炉・ロボット等の研究開発施設・産学連携施設との連携等により高度な教育環境を整備します。</p> <p>○津波災害への備え</p> <p>海岸堤防や海岸防災林・防災公園の整備を進め、津波災害の軽減を図ります。</p> <p>○暮らしの安全対策</p> <p>家屋の解体除染等、効果的な除染の推進や早期廃炉に向けた取組等を国に求めています。</p> <p>町内での生活の再開に際しては、放射線モニタリングの実施、食品安全管理・健康管理等の体制整備を図り、安心して生活できる環境を整備します。また、町内の防犯・防火対策を適切に講じます。</p>